

**赤澤** 元々は当院が独自に、近隣の3つの総合病院との連携のための会を作りました。そこから派生して、京都市が病院間の連携システムを作ったのが、現在の「G-Pネット」です。いまでは、8つの総合病院と当院が連携するネットワークになっています。

**Q** 「G-Pネットがあることで助かった」という事例には、どんなものがありますか？

**赤澤** たとえば、当院の精神科救急で受け入れた患者さんの意識レベルが急激に下がって、うちでは対応しきれなかったケースを総合病院に回して命が助かったケースがあります。逆に、骨折して総合病院に入院した患者さんが、急を要する精神疾患の症状を呈したので、当院に転院してきた例もあります。

**Q** おうばく病院が先駆的に精神科救急病棟を作ったことも、「G-Pネット」を構築したことも、広い意味では地域貢献のためなのですね。

**寺谷** そうですね。医療法人栄仁会の理念は「地域に期待され、信頼される病院グループをめざす」というものですから。私どもスタッフも、地域貢献は常に念頭に置いています。さらに言えば、「近畿一のブランド力のある治療システムを持つ病院づくり」であることを目標に掲げているのですが、我々の病院だけでなく京都という地域そのものの「医療のブランド力」を高めること……そのために当院も貢献したいと考えているのです。

ありがとうございました。



取材と原稿／前原政之（まえはらまさゆき）

1964年 栃木県生まれ。1年のみの編プロ勤務を経て、87年 23歳でフリーに。ライター歴29年。

わたしたちは  
地域に期待され、信頼される  
病院グループをめざしています。



精神科救急スタッフの面々

